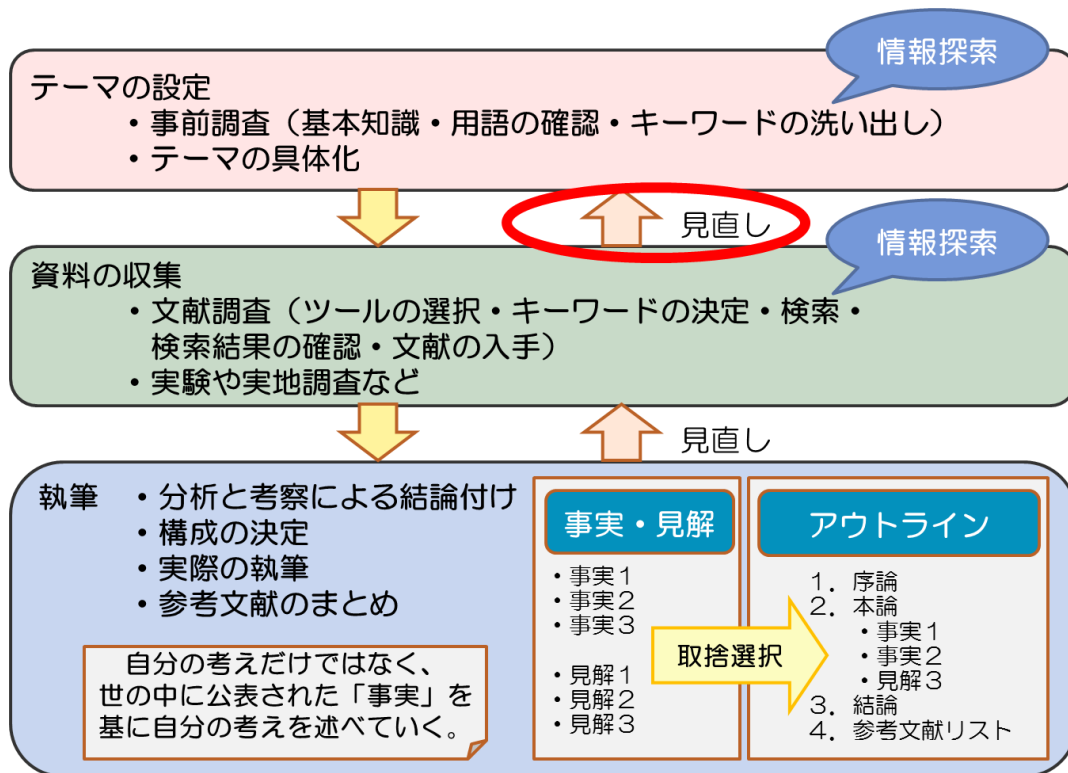


第5章 自分なりの着眼点を見つけよう ～レポートの土台作り～

■ 本章の目的

みなさんはこれまでの章で、自分の興味のあるテーマについて、大まかに資料を集めて読んできました。次は、そこから具体的にテーマを絞り込み、レポートで扱う問題と着眼点を見つけていきます。

レポート作成の手順



(第1章 1.3 レポートの作成手順より)

1. レポートに必要な要素

1.1 レポートの土台

今回はレポートの土台となる「扱う問題」「問題意識」「着眼点」を考えます。まず、「扱う問題」「問題意識」「着眼点」とは何か、確認しましょう。

「扱う問題」

このレポートで論じる、解決すべき問題のこと。

例) なぜ、ベガルタ仙台は強いのか。

「問題意識」

なぜその問題に取り組む必要があるのか、その問題を解決するとどのようなメリットがあるのかということ。扱う問題と問題意識が揃って問題提起として成り立ちます。

例) ベガルタの強さの理由を解明できれば、継続的強化に役立つ。

「着眼点」

どういった側面に注目して、問題の解決に取り組むのかということ。問題解決のための書き手なりの着想や手段です。

例) ベガルタは栄養満点の牛タンをよく食べている。

2. 扱う問題と着眼点

2.1 「テーマ」から「扱う問題」へ

これまでの章では、大まかなテーマに沿って資料を集め、それを読んで興味・関心を持ったことをチェックしていきました。これはテーマを絞り込んでいき、そのレポートで扱う問題を見つけるための作業です。今の時点で扱う問題の候補が見つかった人もいれば、まだまだ見つからないという人もいますかと思いますが、扱う問題を見つけるのに苦労している人は以下のポイントを参考にしてみてください。

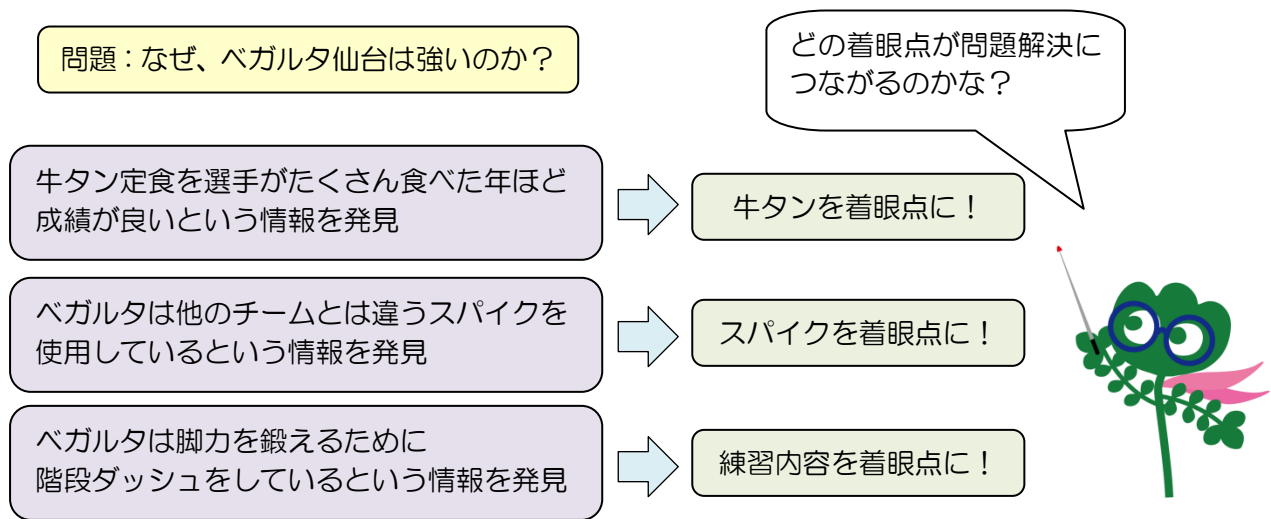
1. 最初はテーマを大きく全般的につかめる資料を読んで、それから具体的な問題について考えていくのがよいでしょう。最初から小さいテーマで検索すると文献が見つかりにくいので注意してください。
2. 研究の素材にするときには、楽しむための読書とは読み方を変えて、もっともっと小さなところを疑問に思うことがコツです。なぜ? という部分が増えれば、それだけ問題の候補が増えることになります。
3. 何か思いついたら、それを紙やパソコンなどに書き留めておきましょう。書き留めたことを後から眺めることで頭が整理できますし、思わぬ発見が見つかる可能性があります。

2.2 着眼点はオリジナリティ

扱う問題が見つかったら、まずは問題に対する回答の仮説を立てるための調査を行いましょう。その問題についての詳しい資料を読み、知り得た情報を整理分析していきます。そして、その中から解決の糸口になりそうな着眼点を見つけるのです。

着眼点はみなさんそれぞれのオリジナリティであり、レポートの売りとなるものです。同じ扱う問題でも、着眼点が違えば内容は大きく変わっていきます。問題解決に相応しい着眼点を見つけることがレポートを作成する上でとても大切なことです。

もちろん着眼点を見つけた時点では、まだその着眼点で本当に問題を解決できるのかどうかはわかりません。この後のステップで今の着眼点ではダメだと分かったら、また別の着眼点を見つけていくことになります。

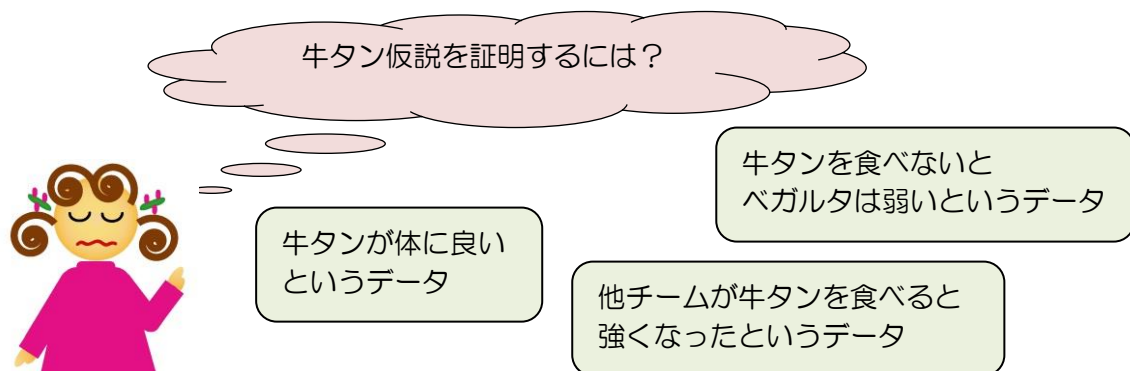


2.3 仮説を立てたら必ず検証

着眼点を見つけて回答の仮説を立てたら、次はその仮説を検証するための調査を行いましょう。物事には様々な要素が関わっているので、1つの側面から見た時は正しいと思われた仮説も、別の側面から見たら的外れなものかもしれないからです。

この段階ではただやみくもに調べるのではなく、目指す結論を支える根拠となる事実・データを得るために調べます。論理的に自分の仮説を証明するためには、どんな事実・データが必要かを意識すると、効率的に調べることができるでしょう。

必要な事実・データを得ることができれば、最終的なレポートの執筆に進むことができます。逆に自分の仮説を否定する事実・データが見つかった場合は、前のステップに戻って着眼点や扱う問題を見直さなければなりません。



2.4 扱う問題と着眼点を見つけるまで ～はぎのすけの場合～

実際に、扱う問題と着眼点を見つけるまでの流れを、図書館マスコットキャラクター「はぎのすけ」がレポートを書いた時の事例から見てみましょう（このアウトラインをもとに作成したレポートは、p.113に掲載されています）。

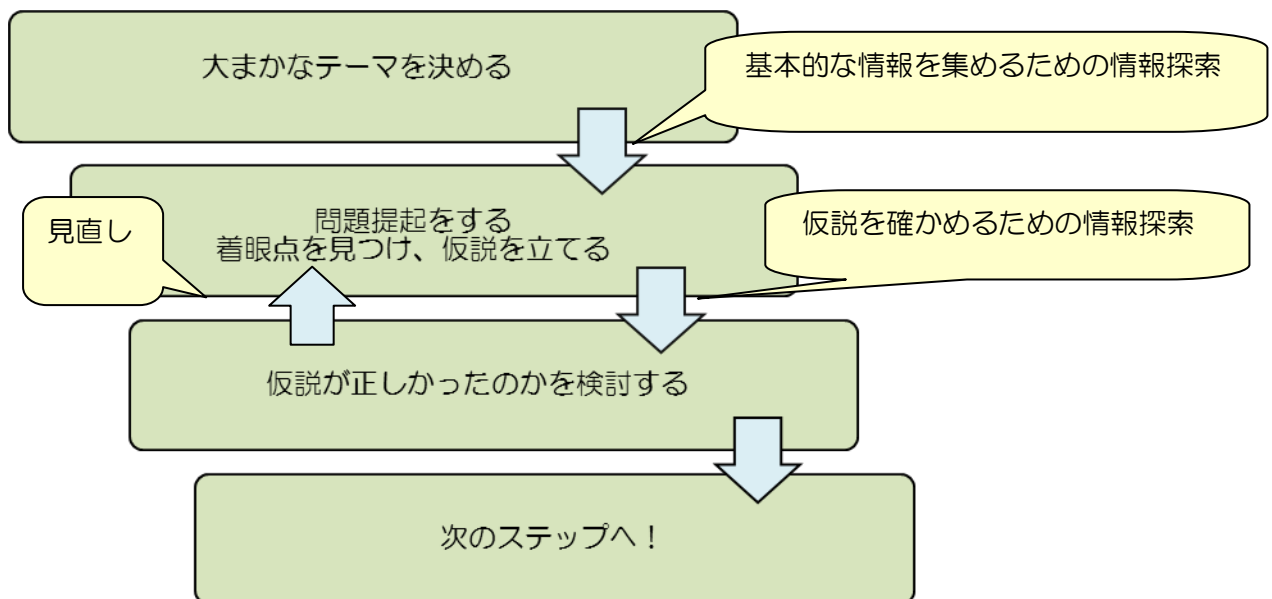
- ① スポーツと文化に関するレポートを書こうと考え、それらの要素を含みそうな相撲を大まかなテーマに設定する。
- ② 近年の相撲界の話題を探ろうと相撲に関する新聞記事を検索した結果、2011年2月

の八百長メール事件に目をつけ、なぜ八百長が存在するのだろうかと疑問に思う。

- ③ 「大相撲の八百長は許容されるべきか」を扱う問題として設定。
- ④ 調べた結果、八百長を擁護する意見では大相撲はスポーツではなく文化だという意見があることが分かる。
- ⑤ 有力な反論を見つけられないまま、とりあえず八百長は一般的に悪いこととして書いてみる。
- ⑥ 書いてみたものを先輩のはぎこさんに見せて相談したところ「根拠が弱いから、何か良い着眼点を見つけよう」というアドバイスを受ける。
- ⑦ 新田一郎氏の本で相撲は複層的なものという意見を見つける。
- ⑧ 「相撲を複層的な存在と考えれば、八百長を非難することと大相撲の文化的側面を擁護することは対立しないのではないか」という着眼点を見つける。
- ⑨ 着眼点に合わせて、扱う問題を「八百長を排すると大相撲の文化が損なわれるのか」に修正する。

2.5 これまでのまとめ

これまでの流れをまとめると、このような手順になります。



参考文献

- 1) 酒井聡樹. これからレポート・卒論を書く若者のために. 共立出版, 2007.